

2021年度 事業報告書

2021年4月 1日から
2022年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

目次	頁
I. 組織体制	3
II. 募金活動	5
III. 総務関係事項	6
IV. 施設管理	7
V. 会員関係	8
VI. プログラム活動	12
VII. 国際文化会館の運営	28

I 組織体制

A. 評議員会・理事会

2021年度中は定時評議員会が1回、臨時評議員会が2回開催された。
また理事会は、2回の書面開催を含み、計7回開催された。

B. 評議員・理事・監事等

2021年度中の評議員・理事・監事等の異動は、以下の通りである。

【理事】

< 2021年6月14日付 >

(重任) 緒方克明 谷家衛 堂前宣夫 御立尚資

【代表理事】

< 2021年6月16日付 >

(重任) 緒方克明

【顧問】

< 2021年6月11日付 >

(重任) 丸山 勇

< 2021年6月11日付 >

(重任) 番場孝司

2021年度末現在の評議員・理事・監事等の人数は、評議員18名、理事13名、監事2名、顧問3名である。

C. 委員会

2021年度中に開催された委員会は、以下の通りである。

・役員等候補者選出委員会

第1回 2021年5月17日

第2回 2021年9月16日

・戦略提携委員会

第1回 2021年4月13日

第2回 2021年5月26日

第3回 2021年6月23日

第4回 2021年7月23日

第5回 2021年9月6日

・プログラム委員会

第1回 2021年11月11日

第2回 2022年2月8日（書面開催）

・70周年記念委員会

第1回ファンドレイジング分科会 2021年6月3日

第1回広報分科会 2021年5月11日

第2回広報分科会 2021年11月19日

II 募金活動

A. 助成金・寄付金

2021 年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。(千円未満四捨五入)

	(千円)
港区ふるさと納税	4, 266
日米国際金融シンポジウム	10, 800
日米友好基金	7, 433
米日財団	2, 200
公益財団法人東京都歴史文化財団 アークハウス東京	9, 841
J-LODlive2 補助金	1, 465
(独)国際交流基金アジアセンター	6, 038
Hasso 会	3, 600
シャハニ・アソシエイツ(株)	2, 000
Tanaka UK Japan Educational Foundation	1, 538
(一財)MRA ハウス	5, 500
日建設計(株)	500
清水建設(株)	300
(一社)霞会館	300
入会時寄付金	28, 400
諸寄附	28, 205

Ⅲ 総務関係事項

A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」（2008年設立）に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。

2019年11月に新たな新基本計画案、2020年度にはモデル権利変換計画が策定された。2021年度は基本設計業務を推進し、会館の土地では地盤調査や擁壁の強度調査が行われた。2022年度には全街区の基本設計に取り組む予定である。コロナ禍で予定がずれ込んでいるが、引続き都市計画提案を目指して事業が進められている。

IV 施設管理

A. 施設管理

2005年から2006年にかけて行った東館改修工事から約15年が経過し、建物や機器の補修・更新が必要となっていることから、東館北側の木製窓枠周辺や東館南側の底部分の補修工事、厨房機器の一部更新を実施した。さらに、宿泊室のドア鍵を非接触電子錠に更新し、宿泊者の利便性を向上させた。また、別館1階に設置している老朽化した空調の部品供給が停止され、今後入手が困難となることから、本体機器を更新した。

V 会員関係

A. 個人会員

2021年度は、新規入会が180名（日本人163名、日本人以外17名）あり、昨年度比36名減少（日本人29名減、日本人以外7名減）した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は116名（日本人84名、日本人以外32名）で、昨年度比6名減少（日本人1名増、日本人以外7名減）した。これにより全体として64名の会員数の増加（日本人79名、日本人以外-15名）となり、2022年3月31日現在、日本人会員2,428名と日本人以外44カ国（地域）の会員827名の合計は3,255名となった。

	日本人	日本人以外	小計	合計
新入会員	163 (91%)	17 (9%)		180 (100%)
退会	47	14	61 (53%)	
死亡	33	9	42 (36%)	
会費滞納	4	9	13 (11%)	
小計	84 (72%)	32 (28%)		116 (100%)
国籍変更	0	0		
増減	+79	-15		+64

B. 法人会員

2021年度の新規入会及び増口は16法人17口で、昨年度比3法人4口増となった。一方8法人8口の退会及び減口があった。これにより法人会員数は昨年度比8法人9口増加し、2022年3月31日現在、合計192法人218口となった。

	法人数	口数	昨年度比
4口 法人	2	8	0 (0口)
3口 //	3	9	-1 (-3口)
2口 //	14	28	+3 (+6口)
1口 //	173	173	+6 (+6口)
計	192	218	+8 (+9口)

C. 図書会員

新規入会者は 21 名、退会者は 22 名で、2022 年 3 月 31 日現在、図書会員は 11 カ国 120 名となった。

D. 総収入

2021 年度の図書会費を含む会費収入は、¥78,391,184 で、昨年度比¥1,050,634 増加し、入会時寄付金収入は¥28,400,000 で、昨年度比¥7,025,000 減少した。法人会費収入は¥32,380,000 で、昨年度比¥880,000 減少した。

	2021 年実績	予算	2020 年実績
個人会員費	¥78,391,184	¥75,300,000	¥77,340,550
入会時寄付金	28,400,000	28,000,000	35,425,000
法人会員費	32,380,000	35,000,000	33,260,000
合計	<u>¥139,171,184</u>	<u>¥138,300,000</u>	<u>¥146,025,550</u>

個人会員国籍別統計

(2022年3月31日現在)

国籍／地域	計					計 2022年 3月31日
	2021年 3月31日	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	
オーストラリア	34	0	3	0	2	29
オーストリア	4	1	1	0	0	4
バングラデシュ	1	0	0	0	0	1
ベルギー	4	0	0	0	0	4
ブラジル	1	0	0	0	0	1
カナダ	36	0	0	0	1	35
中華人民共和国	7	0	1	0	0	6
チェコ	1	0	0	0	0	1
デンマーク	1	0	0	0	0	1
エクアドル	1	0	0	0	0	1
エリトリア	1	0	0	0	0	1
フィンランド	3	0	0	0	1	2
フランス	13	2	0	0	0	15
ドイツ	27	0	1	0	0	26
香港	5	0	0	0	0	5
ハンガリー	2	0	0	0	0	2
インド	10	0	0	1	0	9
インドネシア	4	0	0	0	0	4
アイルランド	5	0	0	0	0	5
イスラエル	1	0	0	0	1	0
イタリア	5	0	1	0	0	4
日本	2349	163	48	32	4	2428
ヨルダン	0	1	0	0	0	1
ケニア	1	0	0	0	0	1
韓国	24	0	0	0	0	24
マレーシア	3	0	0	0	0	3
メキシコ	1	0	0	0	0	1
ネパール	1	0	0	0	0	1
オランダ	8	0	1	0	0	7
ニュージーランド	2	0	0	0	0	2
ノルウェイ	1	0	0	0	0	1
フィリピン	2	0	0	0	0	2
ポルトガル	0	0	0	0	0	0
ロシア	1	0	0	0	0	1
サウジアラビア	1	0	0	0	0	1
シンガポール	7	0	0	0	0	7
スペイン	0	0	0	0	0	0
スリランカ	3	1	0	0	0	4
スウェーデン	6	0	0	0	0	6
スイス	5	0	0	0	0	5
シリア	1	0	0	0	0	1
台湾	6	0	0	0	0	6
タイ	9	0	0	0	0	9
トルコ	3	0	0	0	0	3
イギリス	54	0	1	0	0	53
アメリカ	536	12	5	8	4	531
ベトナム	1	0	0	0	0	1
日本人	2,349	163	48	32	4	2,428
日本人以外	842	17	14	9	9	827
合計	3,191	180	62	41	13	3,255

法人会員分布
(2022年3月31日現在)

県／国	4口	3口	2口	1口	法人数	口数
千葉			1	1	2	3
東京	2	2	12	150	166	188
神奈川				1	1	1
富山				1	1	1
愛知				1	1	1
滋賀				1	1	1
大阪		1	1	1	3	6
岡山				1	1	1
福岡				1	1	1
沖縄				1	1	1
茨城				1	1	1
ドイツ				2	2	2
オランダ				1	1	1
イギリス				1	1	1
アメリカ				9	9	9
合計						
法人数	2	3	14	173	192	
口数	8	9	28	173		218

VI プログラム活動

A. 若手リーダーのネットワーク構築とエンパワーメント

1. アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP)

アジア・パシフィック・ヤング・リーダーズ・プログラム (APYLP) は、来る数十年にわたりアジア太平洋地域の平和と繁栄を担っていく次世代のためのコミュニティで、地域内のさまざまなリーダーシップ・プログラムのフェローたちを繋ぎ、継続的な研鑽の機会を提供することで、新たな取り組みを生み出し、こうした次世代コミュニティの活動の拠点となる「場」を提供する。活動の柱として、APYLP 参画団体が中心となって年数回のジョイント・セッションを、日本をはじめアジア太平洋地域各地で開催する。

2021 年度は、引き続きコロナウィルス拡大の影響を受け、オンライン上で「インド太平洋リーダーによるウェビナーシリーズ～アジアの知性：ラモン・マグサイサイ賞受賞者の世界～」と題した下記 6 回シリーズのウェビナーを開催し、アジア太平洋地域のリーダーであるラモン・マグサイサイ賞受賞者をスピーカーに対話の場を創出し、知的・文化交流を行った。ウェビナーは日印対話プログラムと合同で開催した。

【主催】国際文化会館

【共催/プログラム・パートナー】ラモン・マグサイサイ賞財団

【共催】シャハニ・アソシエイツ株式会社

【助成】国際交流基金アジアセンター アジア・文化創造協働助成プログラム、一般財団法人 MRA ハウス、Tanaka UK Japan Educational Foundation

第 1 回「マイノリティに声をもたらず揺るぎないアクティビズムとは」

配信日：2022 年 1 月 31 日

スピーカー：ステイブン・マンシー (CFSI 代表/2021 年受賞、米国/東南アジアで活動)、TM クリシュナ (音楽家/2016 年受賞、インド)

モデレーター：チェチェ・ラザーロ (ラモン・マグサイサイ賞財団理事)

第 2 回「社会運動を醸成するには：オルターナティブ・メディアの役割」

配信日：2022 年 2 月 3 日

スピーカー：アルナ・ロイ (2000 年受賞、MKSS 共同創始者)

モデレーター：チェチェ・ラザーロ (ラモン・マグサイサイ賞財団理事)

クエスチョネア：山口大介 (新渡戸リーダーシップ・フェロー)

第3回「未来は彼らのもの：子どもの主体的でダイナミックな学びを育むには」

配信日：2022年2月10日

スピーカー：クリストファー・ベルニド氏、マリア・ヴィクトリア・ベルニド氏（教育者／2010年受賞、フィリピン）

モデレーター：チェチェ・ラザーロ（ラモン・マグサイサイ賞財団理事）

クエスチョネア：成富太朗（新渡戸リーダーシップ・フェロー）

第4回「～自然農法の創始者：福岡正信氏（1988年マグサイサイ賞受賞）への特別トリビュート・セッション～「環境・社会的ゴールへの到達をけん引する農家とは」

配信日：2022年3月8日

スピーカー：ヤン・サン・コマ氏（カンボジア農業研究・開発センター創設者）

モデレーター：スーザン・アフアン氏（ラモン・マグサイサイ賞財団会長）

第5回「～中村哲氏（2003年マグサイサイ賞受賞）特別トリビュート・セッション～「紛争、災害、パンデミック後の復興～メンタルヘルスケアの重要性を考える」

配信日：2022年3月15日

スピーカー：アナンダ・ガラパッティ氏（医療人類学者/2008年ラモン・マグサイサイ賞受賞/スリランカ）

モデレーター：スーザン・アフアン氏（ラモン・マグサイサイ賞財団会長）

クエスチョネア：丁寧（新渡戸リーダーシップ・フェロー）

2. 新渡戸リーダーシップ・プログラム

新渡戸リーダーシップ・プログラムは、新渡戸国際塾の継承事業として2018年度の準備期間を経て、より多様化・複雑化する課題に対し、既存の枠にとらわれない視点や方法で取り組む若手リーダーを発掘する事業として2019年度より開講した。近藤正晃ジェームス（国際文化会館理事長）が代表を務め、これまでに新渡戸国際塾を修了したフェローの中から選ばれた運営委員による企画のもと、「自ら未来をデザインし、実現する～変容するボーダーをどう越えるか」をテーマに、6月から12月まで全13回の講義を行った。

2020年度も開講に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、開催を見送った。上記APYLPのウェビナーにて新渡戸同窓生

に「ファースト・クエスチョネア」としてアジア太平洋地域のリーダーである講師に日本の若手リーダーを代表して質問をいただき、国際的な知的対話の場を醸成するために貢献いただいた。

2021年度は既存のフェローネットワークを強化していく取り組みも引き続き行われた。「高校出張講座」のように新型コロナウイルスの影響で実施できないものもあったが、「同窓会」はオンラインを活用して実施され、「コロナ禍・アフターコロナについてのディスカッションを行い、フェローの繋がりと結束を強め、社会に対して積極的に貢献していくことを可能にした。

[同窓会]

➤ 新渡戸Day（10月30日）

[高校出張講座]

新渡戸国際塾修了後に社会のために何か行動を起こしたいという同窓会企画委員の思いから2018年度にはじまったプロジェクトで、地方の高校を訪問し、多様な経験をもったフェローが高校生に向けて自身の経験をシェアすることでキャリア教育の一端を担うというものである。2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、実施を見送った。

3. HASSO会

戦後70年以上経て未だ文化・歴史的背景の違いによる課題が山積している中、2019年に発足した、立場や世代、性別、国籍、宗教などあらゆる垣根を越えた若手コミュニティ。多様な視点から密度の濃い意見交換を行うことで、新時代の平和と共存に貢献するリーダーたちが協働する機会を創出する事を目指す。行政・政策、学術、ビジネス、NPO・社会起業、テクノロジー、宗教・哲学、アート・デザイン、文化の8分野における才気あるリーダーたちが集まり、思索し、語り合い、創造するための機会と場を提供している。月1回、現代社会のさまざまな課題に対して当事者意識をもって取り組んでいる“Agent of Change”を囲む朝食会を開催するほか、国内外の視察を兼ねた交流ツアーも実施している。2021年度は、以下の4回の定例会合と1回の交流ツアーを実施した。

開催日	タイトル	スピーカーなど
6月17日	Hasso会 #9	中川 政七 (株式会社中川政七商店代表取締役会長)
7月2日～ 3日	Hasso会 #10	前橋・白井屋ホテル視察 (田中仁/株式会社ジ ンズホールディングス代表取締役 CEO)
10月14日	Hasso会 #11	梶谷 真司 (東京大学大学院総合文化研究科教授)
12月3日	Hasso会 #12	片岡 真実 (森美術館館長)
2022年 2月9日	Hasso会 #13	近藤正晃ジェームス (公益財団法人国際文化会館理事長)

B. 世界を変える叡智との対話

1. 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラムである。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定する。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

2021 度は、今後のプログラムの拡大や発展を鑑み、選出方法を見直し、協賛先などを探した上で新たにフェローの選出を試みる予定であったが、コロナウィルス拡大の影響により事業は休止した。

2. 世界的なリーダーの招致

学識、政治、経済、文化等の分野の世界の第一人者を海外から招聘し、会館で講演会等を開催し、会館を世界的な知的交流のハブとして確立することを目指す。対象者としては、国賓級のゲストに加えて、各界を代表する世界的な賞の受賞者などで、日本での講演が特に大きな意義があると考えられる人から選別して招聘する。2021 年度はコロナウィルス拡大の影響により海外からの国賓級のゲストが来日する可能性が低いことから事業は休止した。

C. 建築・都市・デザインと社会

1. Architalk ～建築を通して世界を見る～

日本建築界の三人の巨匠（前川國男、坂倉準三、吉村順三）によって設計された会館には、創立当初から現在まで日本の建築界を牽引してきた建築家や世界の建築関係者が会員として多数在籍しており、また国内外からの建築関係者の来館も多い。これらのネットワークを活かし、会館の建物の再生が行われてから10年目にあたる2016年度より、内外で活躍する建築家を招き、現代世界について考えるためのプログラムを開催してきた。

2021年度は、ニューヨークに本部を置くアジア・カルチュラル・カウンシルとの共催で下記の5回のウェビナーを開催した。

主催：国際文化会館

共催：アジア・カルチュラル・カウンシル

協賛：清水建設、日建設計

助成：住環境財団、MRAハウス、東京倶楽部

第一回「変わる建築家の社会的役割」

配信開始：2022年2月17日

スピーカー：隈研吾（建築家）

モデレーター：宮田裕章（慶応義塾大学教授／国際文化会館理事）

第二回「アート、建築、社会」

配信開始日：2022年2月24日

スピーカー：名和 晃平（彫刻家）

モデレーター：宮田 裕章（国際文化会館理事）

第三回 「建築からみる東南アジアの近代」

配信開始日：2022年3月10日

スピーカー：ローレンス・チュア（シラキユース大学准教授）、ペン・セレイパンヤ（「Vann Molyvann Project」ディレクター）

モデレーター：メアリー・ケイ・ジュディ（建築保存修復士）

第四回「建築・デザインを通してコミュニティを創る」

配信開始日：2022年3月17日

スピーカー：サヴィニー・ブラナシラピン（建築家/タイ）、サラ・ムイ（建築家/香港）

モデレーター：メアリー・ケイ・ジュディ（建築保存修復士）

第五回「建築・都市デザインにみる伝統とエコロジー」

配信開始日：2022年3月24日

スピーカー：ジュサック・コー（建築家/韓国）、アネモネ・ベック・コー（建築家/オランダ）

モデレーター：メアリー・ケイ・ジュディ（建築保存修復士）

2. 建物・庭園ツアー

国際文化会館を語るうえで欠かせない、日本モダニズム建築の巨匠、前川國男、坂倉準三、吉村順三の共同設計による建物と、わが国屈指の京都の名造園家「植治（うえじ）」こと7代目小川治兵衛の作庭による庭園を訪れた人々に案内するプログラム。建物や土地、庭の歴史から、会館の設立に関わった方々の信念を紹介することで、国際社会における会館の意義、ひいては平和な未来について考える契機として2019年度より実施している。

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大に鑑み、オンライン開催とした。この機会に国内のみならず国外の方々にも参加いただけるよう、アメリカン・フレンズ・オブ・アイハウスとの共催でオンライン・バーチャルツアーを1回実施した。

開催日	テーマ	講師
11月29日	Online Walk-n-Talk at I-House アイハウスの日本庭園バーチャルツアー #4「松の手入れ編」(日英)	重森千青(作庭家)

D. グローバルな課題への取り組み

1. 日印対話プログラム

日印平和条約締結から60年を迎えた2012年、日印両国が主軸となり、アジア・太平洋の安定と平和を築くための対話の「場」を創出するため、会館と独立行政法人国際交流基金が共同で立ち上げた人物招聘事業である。2017年度からは、シャハニ・アソシエイツ株式会社との共催事業として実施している。

本プログラムでは、社会のさまざまな問題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案している、インド国内で影響力のある人物を、政治・経済・文化・学術・科学など幅広い分野から、年間1~2名、一週間程度日本に招聘する。フェローは、講演会や関連機関の訪問などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。

2021年度は、引き続きコロナウィルス拡大の影響により知識人の招聘が中止となった。代わりに上記 APYLP のオンラインウェビナーと合同でインドの市民社会をけん引する2名の知識人をスピーカーに迎え、難民や各社会におけるマイノリティの状況を改善するための取り組みや情報公開法の重要性などについてお話しいただいた。

2. 日米国際金融シンポジウム

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム(PIFS)との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施している。本シンポジウムは、毎年日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など100名以上が参加し、2日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行うものである。

第24回シンポジウムは新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、11月9~10日にオンラインで開催され、日米から112名が参加、以下の3つのテーマについて討議した。

- マクロ政策の正常化：インフレや市場混乱は不可避か
- 新型コロナ感染症への財政金融面からの対応：適切か過剰か
- グリーンファイナンスとロビンフッド：金融が社会的動向に左右される

ことの是非

3. 特別講演会

今日、国際社会はナショナリズムや排外主義の台頭、グローバル化への反動、テクノロジーの急激な進歩など、世界は既成の枠組みや従来の考え方が通用しない時代へと突入している。また、多くの国が「発展」や「成長」、「多様性」に力を注いできた一方で、さまざまな面で生じた分断や格差が際限なく広がりを見せている。そのような中、人々の対話と交流を通して共通の課題の解決に向けて取り組むため、2019年度より各分野で世界的に活躍する会員の方を特別講師に迎え、年4～5回の講演会及びレセプションを実施している。

2021年度はオンラインで2回、実開催で1回、講演会を開催し、幅広い分野から構成される会員を中心とした参加者が、講演会で問題提起された課題等について理解を深め、社会に貢献してゆく機会の創出を図った。

開催日	テーマ	講師
6月18日	白人ナショナリズムに見る世界の行方	渡辺 靖（慶應義塾大学 教授）
10月29日	Tokyo 2020 レガシーの行方-多様性と調和のある世界の実現を目指して	栗栖 良依（認定特定非営利活動法人スローレーベル理事長）
2022年 1月11日	デジタル公共財を創る：デジタルワクチン証明書の本当の意義	宮田 裕章（慶應義塾大学 教授）

4. 70周年記念事業

国際文化会館は、戦後、米ソ対立によりアジアの冷戦が深刻化する中で設立され、その後の日本と国際社会の平和と繁栄に大きく貢献してきた。設立70周年を迎える2022年に向けて、70年前の大胆な取り組みに学び、今後長きにわたり日本と国際社会の平和と厚生の上に寄与していくことを目指す。2021年度は、これまで国際文化会館が担ってきた社会的役割を再検証し、次代に向けて国際文化会館が果たすべき役割を担う新たなプログラムの準備を整えるために、会館内にプロジェクトチームを発足した。特に社会科学国際フェロシップ（通称：新渡戸フェロシップ）で海外研究に携わった研究者のオンラインインタビューの準備やジャパン・ソサエティと共催で行ったビジネス・フェロシップのフェロのデータベースの整備などを進めた。

5. Value Co Creation Academy (TCP)

テクノロジーをはじめとする様々な分野から、また分野横断的に新たな社会的価値の創造を行うためのプログラム「Value Co-creation Academy」を本年度から発足した。本プログラムの一環として、新型コロナウイルス感染拡大の影響で国境を越えた人々の往来と交流が停滞するなか、テクノロジーとデータの活用を通じて安全な国境往来を目指す非営利組織「コモンズ・プロジェクト」(The Commons Project; TCP / 本部 スイス) の活動を日本国内で推進する。この事業は世界経済フォーラム第四次産業革命日本センター(C4IR)との連携のもとで実施される。

2021年度には、日本政府が発行するデジタル接種証明書の規格としてTCPが推進する医療データ記録のための国際標準「SMART Health Cards」の採択を実現した(国内用・海外用)。また、国際渡航に際してPCR検査結果を示すTCPが推進するデジタル証明書「コモンパス」の実証実験とその評価報告、政府機関や関連業界等との連携強化、広報活動を行った。さらに、2022年1月には、活動報告の一環として、上記3の特別講演会のもとで「デジタル公共財を創る：デジタルワクチン証明書の本当の意義」を実施し、TCP日本委員会代表を務める宮田裕章理事から「自由で開かれた持続可能な未来の創造」に向けた社会実装に取り組む意義について説明した。

E. 文化・芸術/人文科学と社会助成事業

1. 日米芸術家交換プログラム(共催日米友好基金)

米国の芸術家5名(5組)が来日し、3~5カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金(Japan-United States Friendship Commission)が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2021年度は、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、特別プログラムとして米国人フェローと日本の芸術家によるコラボレーション作品を発表し、アメリカ人フェローと日本人アーティストのチームが、オリンピックのテーマである、調和の精神と日米の友好関係を反映した作品を共同制作した。コロナ禍の影響により、5組中4組のアメリカ人アーティストは予定通りには来日できなかったため、3組はオンラインでの作品発表、1組は2021年10月~2022年にかけての発表となった。

このコラボレーション展には Tokyo Tokyo FESTIVAL(公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京)からの助成と世田谷区の後援、米日財団の

助成および J-LODLive2 補助金をいただいた。観客および参加者は、オンライン視聴や関連ワークショップなどへの参加も含めて延べ約 6700 名だった。

フェローとして選出されたのは以下のアーティスト。

ジーン・コールマン Gene Coleman (音楽家)

キャメロン・マッキニー Cameron McKinney (振付家、ダンサー)

スー・マーク&ブルース・ダグラス Sue Mark & Bruce Douglas (インターディシプリナリー・アーティスト)

ジェシー・シュレシンジャー Jesse Schlesinger (ビジュアル・アーティスト)

ベンジャミン・ヴォルタ Benjamin Volta (ビジュアル・アーティスト)

実施したコラボレーション作品の展示・公演は以下のとおり。

開催日	テーマ	アーティスト
4/13(火)	ウェビナー 『忍耐のモーション』	キャメロン・マッキニー× 島崎徹
7/16 (金)	庭園展示『旅はすみか-The Journey Itself Home』 「声の記念碑」	marksearch (スー・マー ク&ブルース・ダグラ ス)、阿部浩之、遠藤夏香
7/16 (金)	アーティストトーク 『旅はすみか-The Journey Itself Home』	marksearch (スー・マー ク&ブルース・ダグラス)、 阿部浩之、遠藤夏香 モデ レーター：島貫泰介
7/27 (火) ～8/8 (日)	『旅はすみか -Journey Itself Home』展示 (会場：世田谷美術館 区民ギャラ リーB)	marksearch (スー・マー ク&ブルース・ダグラス)、 阿部浩之、遠藤夏香
7/27(火)	アーティストトーク配信 『旅はすみか-The Journey Itself Home』 *7/16 実施のトークを配信	marksearch (スー・マー ク&ブルース・ダグラス)、 阿部浩之、遠藤夏香 モデ レーター：島貫泰介
8/31(火)	ミニドキュメンタリー配信 『A SENSE OF PLACE』	ジェシー・シュレシンジャ ー コラボレーター：船越 雅代

9/5(日)	コンサート『KATA』特別編集版配信	ジーン・コールマン、中村明一、鶴澤三寿々、アダム・ヴィディクシス
9/5(日)	コンサート『KATA』インタビュー編配信	ジーン・コールマン、中村明一、鶴澤三寿々、アダム・ヴィディクシス、モデレーター：ミホ・ウォルシュ
9/5(日)	プロジェクトビデオ配信『日米キッズ・パブリックアートプロジェクト：United By Emotions』	ベン・ヴォルタ、桑門超、佐倉康之
10/15(金)	プロモーションビデオ配信『日米ダンス合作：コンテンポラリーとストリート』	キャメロン・マッキニー、島崎徹
10/15(金)	プロモーションビデオ配信 コンサート『KATA』	ジーン・コールマン、中村明一、鶴澤三寿々、アダム・ヴィディクシス
10/19(火) ～3/27(日)	展示『日米キッズ・パブリックアートプロジェクト：United By Emotions』 (会場：パナソニックセンター東京)	ベン・ヴォルタ、桑門超、佐倉康之
12/15(水)	ワークショップ『日米キッズ・パブリックアートプロジェクト：United By Emotions』 (会場：パナソニックセンター東京)	ベン・ヴォルタ、桑門超

F. 助成事業

1. 「アジール・フロタン」復活事業

「アジール・フロタン」とは、ル・コルビュジエが1929年に、救世軍の

依頼によりリノベーションした船を、難民のための浮かぶ避難所として設計した作品である。2018年2月のセーヌ川の増水により沈没したため、この「アジール・フロタン」の浮上と修復工事そして修復工事後の復活に関わる展覧会等の実施を目的とする事業である。「アジール・フロタン」を復活（浮上と修復）させることは、日仏の文化と建築領域の交流と発信に大きく資するほか、「アジール・フロタン」は1929年にル・コルビュジエに弟子入りをしていた建築家前川國男（会館を設計した建築家の一人）の担当した作品でもあり、日本の近現代建築の貴重な歴史的証となるものである。さらに、「アジール・フロタン」は、難民の避難所として利用され、現代史において社会に果たした役割も大きい。

2019年度内に浮上工事が完了する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大およびフランスの政治状況の影響を受けて延期となり、2020年10月の工事再開により浮上した。2021年度は引き続き日本建築設計学会主催の本事業を広く一般に広報するための支援を行った。

G. 広報・情報発信

1. 定期・不定期刊行物

月刊定期メルマガおよび臨時メルマガを発信し、最新の情報を配信した。各年度の事業内容をまとめた年次報告書は、2019年度よりウェブサイト上に公開している。

2. アイハウス・プレス

2006年より、出版メディアを通して、会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を基本として実施している。2021年度は、これまでに刊行された書籍の販売を継続するとともに、電子化の可能性について引き続き検討した。

3. Web、SNSなどによる情報発信

2022年度も引き続きウェビナーでのプログラム配信が多かったため、配信後もウェブサイト上で動画を公開し、Youtubeを活用した。Facebook、Twitter、などソーシャル・メディアによるスピーディかつインタラクティブで非接触なコミュニケーションにも継続して注力した。またInstagramを使ったビジュアル発信も継続しており、建築的側面からのフォロワーを獲得している。

H. 図書室

1. 通常業務

2021年度の図書室サービスにおいては、前年度と比較して来館者は増加したが、貸出は減少した。

	2020年度	2021年度
蔵書		
図書	27,616 冊	27,542 冊
雑誌タイトル	395 種	372 種
受入図書	179 冊	270 冊
購入	118	160
寄贈	61	110
受入雑誌	2,280 冊	2,064 冊
除籍図書	206 冊	344 冊
開室日数	257 日	292 日
来館者	5,371 人	6,725 人
日本人	3,861	4,926
外国人	1,510	1,799
貸出	898 冊	685 冊
図書館間貸出	114 件	120 件
依頼	90	83
受付	24	37
レファレンス	546 件	505 件
来館	325	291
電話	58	49
手紙・ファックス	28	29
電子メール	135	136
パソコン利用者	91 人	92 人
図書会員	121 人	120 人
入会	20	21
退会	23	22

(2022年3月31日現在)

2. アーカイブ基盤整備事業

会館に保管されている写真、事務文書、各種の記録など、戦後の文化交流史を語る一次資料の活用を可能にし、総合的な基礎目録をインターネット上で公開することを目的として、3カ年計画（2017～2019年度）で本事業を実施した。2021年度は内外のアーカイブ機関と協議し、また有識者の助言も得つつ、2020年度に引き続き今後のアーカイブ資料の保存や活用について検討した。さらに専門家に依頼し、会館アーカイブの分析および活用について調査を実施した。

3. その他

(a) 書籍小展示（共催日仏会館図書室、ドイツ日本研究所図書室）

本小展示は日仏会館図書室、ドイツ日本研究所図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料、ドイツ日本研究所図書室ではドイツ語の資料を展示した。

開催日	タイトル	展示資料
10月1日 ～ 10月30日	日本の世界遺産	日本の世界遺産に関する英語資料 (会館) 日本の世界遺産に関する仏語資料 (日仏会館) 日本の世界遺産に関するドイツ語資料 (ドイツ日本研究所)
3月1日 ～ 3月31日	都市「東京」の過去 から現在	都市「東京」に関する英語資料 (会館) 都市「東京」に関する仏語資料 (日仏会館) 都市「東京」に関するドイツ語資料 (ドイツ日本研究所)

(b) その他の書籍小展示

広報の一環として、会館に関係した図書や会館を紹介している図書等の展示を実施した。

開催日	タイトル	展示資料
4月1日 ～ 5月31日	-	名建築で昼食を：オフィシャルブック / 「名建築で昼食を」製作委員会著 CCCメディアハウス, 2020.12
5月13日 ～ 6月30日	エズラ・ヴォーゲル氏 追悼小展示	エズラ・ヴォーゲル氏の著作、関連資料
6月19日 ～ 7月31日	-	文化交流は人に始まり、人に終わる：私の国際文化会館物語 / 加藤幹雄著 新聞通信調査会, 2021.3

I. 協力・後援事業

2021年度に国際文化会館は以下の事業への協力・後援を行った。

【後援】

「エズラ・ヴォーゲル追悼セミナー」

生前エズラ・ヴォーゲル名誉教授と親交のあった、かつ日米関係（安全保障）に深く関与した方々にパネラーとして参加いただき、生前のヴォーゲル氏との出会い、ヴォーゲル氏の日米関係（安全保障）強化への関与についてお話しいただき、フロアも含めて自由な討議をする会を開催。

日時：2022年1月17日（月）

主催：安全保障外交政策研究会、エズラ・ヴォーゲル・ハーバード大名
誉教授追悼イベント実行委員会

後援：鹿島平和研究所、国際文化会館

VII. 国際文化会館の運営

2021年度は、研究個室（宿泊施設／全31室）において、2,770名の宿泊客を迎えた。通常、外国人の利用は60%を越え、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化人、知識人の方々が集う施設としての特色を表すが、新型コロナウイルスの影響により、外国人の利用は21.0%と大幅に減少した。

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は10,411名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム）では、7,634名に利用された。

【宴会キャンペーン】

- ウィンター・パーティープラン
(2021年12月1日～2022年2月28日)

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、40,250名に利用された。また、主食堂のレストラン『SAKURA』は、10,127名の利用があった。

【ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント】

- クリスマスランチ／ディナー (2021年12月17日～12月25日)
- 年越し蕎麦 (2021年12月31日)
- お正月ランチ／お正月御膳 (2022年1月1日～3日)
- 桜御膳 (2022年3月14日～4月10日)

【レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント】

- クリスマススペシャルコース (2021年12月17日～12月25日)
- 新春特選おせち (2022年1月1日～3日)
- 新春フレンチコース (2022年1月1日～3日)
- 桜フレンチコース (2022年3月14日～4月10日)

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、75,647名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会 Sakura Party (2021年4月2日 参加者58名)
- クリスマス晚餐会 (2021年12月24日参加者30名)

例年開催のガーデンビアパーティおよびワインパーティは、新型コロナウイルスの影響により、開催を見送った。

サービス活動実績

研究個室

自 2021年 4月 1日

至 2022年 3月 31日

	2020年度	2021年度	増減	前年比
宿 泊 者 数	2,933	2,770	-163	94.4%
一日平均宿泊者数	8.0	7.6	-0.4	94.4%
外 国 人 比 率	24.7%	21.0%	-3.7%	85.0%
稼 働 率	18.9%	19.2%	0.3%	101.6%
収 入 額	¥41,652,000	¥60,554,000	¥18,902,000	145.4%
一日平均収入額	¥114,115	¥165,448	¥51,333	145.0%

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2021年 4月 1日

至 2022年 3月 31日

		2020年度	2021年度	増減	前年比
セミナー室	収入額	¥21,296,024	¥31,218,430	¥9,922,406	146.6%
	客数	7,163	10,411	3,248	145.3%
	客単価	¥2,973	¥2,999	¥26	100.9%
会議室	収入額	¥48,476,442	¥73,650,553	¥25,174,111	151.9%
	客数	4,801	7,634	2,833	159.0%
	客単価	¥10,097	¥9,648	¥-449	95.5%
婚礼	収入額	¥45,731,380	¥125,021,833	¥79,290,453	273.4%
	客数	1,517	4,455	2,938	293.7%
	客単価	¥30,146	¥28,063	¥-2,083	93.1%
レストラン	収入額	¥56,822,681	¥67,297,280	¥10,474,599	118.4%
	客数	9,221	10,127	906	109.8%
	客単価	¥6,162	¥6,645	¥483	107.8%
ラウンジ	収入額	¥69,985,419	¥79,905,824	¥9,920,405	114.2%
	客数	36,321	40,250	3,929	110.8%
	客単価	¥1,927	¥1,985	¥58	103.0%
合計	収入額	¥242,311,946	¥377,093,920	¥134,781,974	155.6%
	客数	59,023	72,877	13,854	123.5%
	客単価	¥4,105	¥5,174	¥1,069	126.0%
一日平均	収入額	¥663,868	¥1,030,311	¥366,443	155.2%
	客数	162	199	37	123.1%